

## 新たな学校の夜明け

明治5年の学制頒布に先駆けること3年前（明治2年）、京都の町制改革に伴い「番組（ばんぐみ）小学校」が64校開校しました。番組小学校は学校というだけでなく、現在の区役所や警察署、消防署、保健所などの役割をも果たしていました。このほかにも、明治初期の学校は、地域の中心的な役割と意義を持っており、また地元の期待も大きく公金だけではなく、寄付金や勤労奉仕によって建設された学校が各地にあったと言われています。

当時の学校建築は、磐田市の見付学校、福井県三国町の龍翔学校、秩父市の大宮学校など、華麗で威風堂々とした擬洋風・洋風建築のものもありました。子どもたちは毎日ワクワクしながら登校し、地域の人々も町や村の行事で集う、教育・文化・交流の場として、学校は地域の誇りとする施設であったことと思います。

さて、時代は変遷し、再び学校を取り巻く社会環境に対応した施設づくりや、地域との新たな関わりが求められる時代になってきました。今回本誌は「地域活動の核となる学校トイレ」をテーマに編集いたしました。ご紹介する学校の中でも、三重県いなべ市立石榑小学校は、学校のためには骨身を惜しまない地域の人々に連綿と愛され支えられてきた学校です。今回の建て替えも地域の方々の働きかけから動き出し、彼らも参加したワークショップが55回も積み重ねられ建設されました。学校のイベントも地域の方々により運営されています。「この校舎になってから不登校児童はなく、子ども同士のけんかも先生が怒鳴っていることも見たことがありません」と小林教頭のことばが印象的でした。

また、統合中学校として開校した下関市立豊北中学校は、地域の生涯学習の拠点として図書室や特別教室、ラウンジスペースが一般開放されており、多様な用途に対応したトイレづくりがされています。また生徒たちのトイレ清掃が実に行き届いており、彼等の元気な挨拶が静謐な中にも活気を漂わせています。開校準備委員会から関わってこられた梅月校長の「学校の中にまちがある」とのことばに、校長の学校と地域への思いが伝わってきます。

石榑小学校と豊北中学校は共に、建築家を始め学校関係者や地域の人たちが叡智を結集し、時間をかけて建設した学校です。学校を取り巻く豊かな自然環境と、地域の期待を担った教職員の方々の熱意に、人との交流と環境を軸とした新たな学校の夜明けを感じました。両校とも、文部科学省の「コミュニティ拠点としての学校施設整備に関するパイロット・モデル研究事業」の指定校ですが、今後の発展が期待されます。

冒頭の座談会では3つの都市の学校トイレづくりを推進された行政のご担当者、「子どもたちのきれいなトイレこそ、まちづくりの原点」をテーマに語っていただきました。皆さん都市計画や建築畑出身ですが、まちづくりの中で学校が担う役割の大切さを認識され、率先して教職員の協力のもとに子どもたちとトイレづくりに取り組まれ、今回示唆に富んだお話をいただきました。本誌が学校トイレづくりの参考になれば幸いです。

学校のトイレ研究会事務局長 高嶋弘明



Vol.1



Vol.2



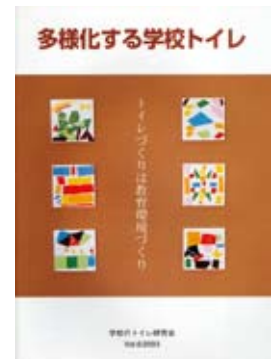
Vol.3



Vol.4



Vol.5



Vol.6



Vol.7



Vol.8



Vol.9



Vol.10